

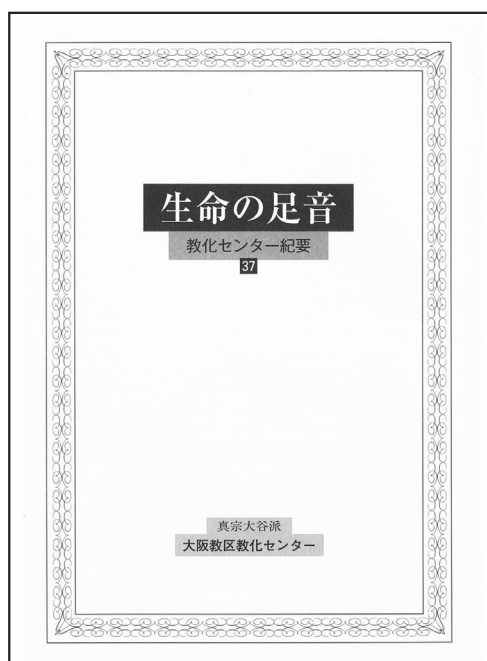
# 教化センターだより

## No. 411

発行日 2021年9月1日  
発行 真宗大谷派大阪教区  
教化センター  
TEL 06-6251-0745  
FAX 06-4708-3278

### 大阪教区教化センター発行書籍の紹介

新刊『<sup>いのち</sup>生命の<sup>あしおと</sup>足音』<sup>きょう</sup>教化センター紀要37号 426頁



#### <掲載内容>

- ・巻頭言 大町 慶華
- ・『現代と宗教』講義 和田 稠  
第十二講 浄土真宗の時の世  
第十三講 浄土真宗に生きるとはどういうことなのか  
第十四講 真宗が頭かにしている世界
- ・現代教学研究班報告 頼尊恒信・長井正純・榊原泰生  
「寺院・諸施設のバリアフリー研究Ⅲ  
—バリアフリーの実際—」
- ・教学儀式研究班報告 池田英二郎・高島章・北畠玄  
「本願寺相伝の歴史」  
『法幢御糺』  
「香月院深励師の教学と相伝教学の相違  
—儀式と教学の関係性を念頭において—  
往相廻向・還相廻向の二種廻向の問題」
- ・修了レポート 教学研修院第十一期生
- ・教化センター雑記

頒布価格 1,500 円 (税込・送料別)

本書は2021年6月30日に刊行され、8月の全寺院発送で教区内の寺院に一部ずつ贈呈されたものです。追加をご希望の場合は教化センターまで注文ください。

—教化リーフレットの  
「活用」について—  
4枚の「教化リーフレット」  
は、各寺院・教会において「寺報」  
や個別に複写しての配布、同朋  
会や聞法会での教材としての活  
用いただければ幸いです。  
—10月のリーフレット—  
リーフレット①  
「掲示板の「おは」……松山正輝  
『そのまんまの  
尊さを  
見つめられる人に  
私になりたい』  
リーフレット②  
「今月のGJYは」……多田孝圓  
『専断執心判浅深  
報化二土正弁立』  
リーフレット③  
「もしもし相談」……沼田和隆  
『氏子の青年団にも  
入って欲しい……』  
リーフレット④  
「仏典マンガ・仏教のお話」  
「兄弟のシカ王」  
(敬称略)

# そのままの

とうと

# 尊さを

み

# 見つめられる人に

ひと

わたし

# 私はなりたい

あるご門徒で九十四歳の女性がおられる。その方は自宅からすぐのところにあるスーパーへ朝一番歩いていき、ちょっと買い物をしてから喫煙コーナーで一服というのが定番のコース。そこでは何人かの喫煙仲間がいて、おしゃべりが楽しみ。中には引きこもりの若者もいたそうでその人とも「あんたも大変でんなあ」と気さくに声をかけ、その若者にとってもそのご門徒にとっても大切な場所になっていったようだ。そのご門徒が高血圧で好きだったタバコを止められ、スーパーの喫煙コーナーに行くこともなくなり、毎日の楽しみがなくなってしまう。静かに暮らすことが多くなってきた。家族の

勧めで少しでも刺激になるようにと、昨年末からしぶしぶデイサービスに行き出された。するとそこにはなんと百七歳の方がおられたというのでびっくり。九十四歳のその方が「あんたまだ若いねんからしっかりせな」と言われ、その方の存在がすごく励みになっていくとおっしゃっていた。

このように「いのち」のあり方は老若男女様々、だがその「存在」そのものが互いを励ましたり癒したり、また支え合ったりするんだということが感じられた。つつい能力や地位、役に立つ立たんといった視点で自他を見ることがあるが「いのち」は本来、そのままで輝き、そのまま光っているんだなあ。（松山 正輝）

源信 広開 一代 教

偏 帰 安 養 勸 一 切

源信、広く一代の教を開きて、ひとえに安養に帰して、一切を勧む。

源信僧都は、平安時代の

年で脱稿。人生の真実を見

の半ば前、出生は奈良の当麻の里です。七歳の時に亡くなった父の遺言で、のちに比叡山延暦寺で出家。天台宗の良源に師事。弱年にして学才に恵まれ名声上がり、朝廷より布施の品を受ける。嬉しさの余り母に送るが、「あなたの本意が、父の遺志を忘れぬように」として仏道に励み、私の後世を救ってもらいたい。と、布施の品を送り返す。母の手紙を読み涙して聖を誓う。その後修行に励み、母を尋ねるがおりしも臨終の時、源信が念仏するなか

で母は往生成仏された。母子共に相寄り、相助けて互いに導師となられたのです。

横川の楞嚴院で

『往生要集』三巻を半

年対比して、我が姿を明らかにしようとしたのです。

序文には「それ、往生極楽の教行は、濁世末代の目足なり。」から始まり、「予が如き頑魯の者、豈敢えてせんや。是の故に念仏の一門によつて、聊か経論の要文を集む。」とあります。

源信自ら「頑魯の者」と示される。頑はかたくなであり、魯は鈍い愚かの意です。天性聡敏な才に恵まれるが、なぜ「頑魯」と自己認識されたのか。

真理を求めながら程遠

我が姿に煩悶する。無明からくる自己への執着である。我が姿を見、法に照らされた深い自己省察からでたお言葉である。

源信僧都は寛仁元

(一〇一七)年、七十六歳で浄土へ還歸された。況後世に出られた法然上人も智慧第一と称されたが、ご自身を「愚痴の法然房」と述べられ、その弟子親鸞聖人も「愚秃」と名告られたのです。

己を愚かだと自覚があればこそ真実でありたいという願いが生まれる。智慧が求められ求道が成り立つ。「厭離穢土」から「欣求浄土」への希いがあります。

釈尊一代の経典を読み、大蔵経を五度まで披閱するが、教行はいかに多くあれども、万人救済の道

は、念仏一門しかないことを樹立されるのです。

『往生要集』に「人身を得ること甚だ難し。…当に知るべし、苦海を離れて浄土に往生すべきは、ただ今生のみにあることを。」とある。人間の生は「苦」に満ちているが、その生を転換するには、人間に生まれている間しかできない。「人界」があることを『往生要集』は強調し、人間に生まれてきた理由を教える。

宗祖が、安養の浄土に帰す仏道を開かれた源信僧都を第六祖として、崇められた所以であります。(多田 孝圓)

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

207頁

『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

## もしもし相談



氏子の青年団にも  
入って欲しい…

## 問

我が家は浄土真宗ですが、同時に代々氏子として、神事や地域のお祭りを担ってきました。先日、息子に氏子の青年団に入ってほしいと伝えたところ、なぜ二つも宗教をやらなくてはならないのかと言われました。氏子として地域の大切な役目もあるので、どう説得すればいいか悩んでいます。

(65歳・男性)

## 答

日本人は古代より初めて出会う文化にも非常におおらかな心で接してきたのではないのでしょうか？古くは縄文人が弥

生人を許容した様な文化がありました。もともと仏教も外来の宗教であった事はご周知のとおりです。

日本の社会というのは、皆が許容し合って融和している文化が色濃いのはありませんか。先日より「分断」という言葉を耳にすることが多くなりましたが、日本人はこの分断をうまく遠ざけて許し合って生きてきたと私は思うのです。彼の聖徳太子の『十七条の憲法』の第一条、「和を以て貴しと為す」の精神が受け継がれてきたからでしょう。「和」という言葉には、和えるとか和らげるという意味があって、和え物という食べ物や連想しま

す。自分の持ち味で相手をも引き立てるという事でしょうか。あらゆるものは互いに引き立て合って命を全うしているのではありませんか。あらゆるものを仏典では「衆生」と言い表して下さいます。生きとし生けるものという意味らしいのですが、命あるもの、また命を全うしたものに感謝と尊敬の命を抱いて接していく事が問われるものです。有名な西行法師が伊勢神宮に参拝された時に詠まれた短歌に「何事のおわしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」とあります。陳腐な説明などいらなしいと思うくらいに素晴らしい短歌です。日本の文化

に触れて、日本人に生まれてよかったと感動せずにはいられません。

さて、ご息子の心に届くのか心配です。氏子の青年団に参加する事が、必ずしも神道を貫かねばならないという事ではなく、真宗門徒の一員として神事のお手伝いをさせていただくくらいのお気持ちで、地域の方々と共に交流を深めてみては如何でしょうか。前述のとおり、分断を選ぶのではなく感謝と尊敬の念を持って接すると視野も広がると思います。「和を以て貴しと為す」のみ教えのとおり、真宗門徒として豊かな人生を歩んでいただきたいものです。

(沼田 和隆)





# 仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (195)

**兄弟のシカ王** (ぎょうだい)

ある森でシカ王が世継ぎを決めようとしていました

① 良かれと思つても…

② 王位は弟にしてください 弟の方が優秀です

③ だめだ お前は長男だ 力と智恵の修行に はげみなさい

④ お前はワシの子じや やればできる！ 頑張るのだ

⑤ 誰よりも早く 走れるようになるのだ

⑥ そんなことで 群れが守れるのか

⑦ 王子は置き手紙をして 失踪してしまいました

⑧ 何も、いなく ならなくても…!

⑨ そばにいるだけでも 私…

⑩ すまなかつた…

⑪ 私の期待と重圧が あの子を追いつめた…

⑫ シカ王と王妃は王位を 次男にゆずり…

⑬ 群れから離れ 兄シカを探しに 旅に出ました

⑭ 傷つける こともあるね

参考仏典：『ジャータカ物語』

仏典や仏教童話などを参考・題材にして教化センターが創作したお話です。